

教務だより

2013年4月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

目的を持って始める…2013…

茗溪塾塾長 宇野雅春

「合格体験記2013」が完成しました。そろそろ配布の時期になるかと思います。

今年は巻頭16ページをカラーとし、受験後の座談会や卒業式のドキュメントを入れました。また、全文掲載以外のものも、教室のページにダイジェストとして掲載しました。校正段階でも度も読み返したこともあり、印象に強く残ったのは、「習慣」の大切さでした。塾で長い年月推し進めてきた「優先順位(TO DO LIST)」や「WIN-WIN」が随所に見られます。「朝型生活習慣」や「オープンスペース」の活用、「その日学習」や「KY(こだわってやり直し)」などは、ずいぶん浸透していると実感出来ました。「やる気作りプログラム」として導入した「7つの習慣」が、生徒たちにも受け入れられてきていることを、本当に嬉しく思いました。

そもそも「習慣」の第一は「主体的に取り組む」です。物事にすぐ反応するのではなく「一時停止ボタン」を押して、まず考える事から始まります。主体的に生きるということは「流されないこと」です。相手の言動や態度に、即反応してしまうと事態は自分の予想しない方向に転がって行ってしまいます。この「反応的な自分」を克服することが「主体的に取り組むということ」になります。親とけんかが絶えない人の多くは、反応的な人です。むかつくことを言われたときに、「一時停止ボタン」が押せるかどうか?「ちょっと待てよ、もしかしたら〇〇なのではないか?」このことで結論が変わってきます。

4月に取り上げるのは、「主体的に取り組む」に続く「目的を持って始める」です。ほとんどの生徒の目的は「受験」です。親や周りに甘えている生徒は、いつまでたってもこの「目的」が見えてこないようです。小学生などでは親も、「勉強ばかりでかわいそう」と考える傾向があり、最後まで「受験」を自分のこととして受け止めきれない生徒がいます。さすがに親も受験が近くなれば、「これでいいのか」と思うようになりますし、そもそも子どもの自主性など全く問題にしていけない親は、転塾させたり、指導形態を変えようとしたりします。その結果、効果が出ないことで親は「厳しく」変身しますが、厳しくすればするほど子供はやる気を失い、学習は困難になります。

受験はある意味「努力」を競うものです。自分のこととして受け止めきれないのであれば、「成功」はないのです。受け止めるチャンスを親が奪い、その後で、押しつけるのですからうまくいくわけがありません。

但し、合格体験記を読むと受験の直前ではおおかたの生徒が自覚してきます。自覚した時に成績は大きく伸びています。早く目覚めてもらいたいというのが私の気持ちです。

そこで4月は「目的を持って始める」がテーマになります。目的がはっきりしなければ、どこに行くのかが分からなくなります。何をどうしていけばよいのかも分からないのでは「目的地」に到着することは困難です。

今でも忘れられないのは、中3生が公立受験1週間前に「電流」が全く分からないとか、作文がまったく書けない(書いたことがない)と申し出てきた例です。それでも絶対合格したい…。今までそこをどうにかごまかしていたということでした。その後休日返上でつきっきりで見ることになりましたが、そういう生徒ほど自分の責任とは思っていないものです。どうにか合格はしたものの本人のために良くなかった気がしてなりません。何事も自分で向かわない限り身につかないからです。不得意を固定化する生徒ほど、甘えが多いし、自分の目的を見失っているものです。

4月は「目的を持って始める」を習慣化する月です。いつまでも何かに甘えていないで、将来の自分を真剣に考えましょう。「10年後の自分」を想定し、そこから今年の目標を決めます。部活が忙しく大変でも、目的が分かっているればやれるものです。

日常に追われながら、すべてを周りのせいにして、自分が責められなければそれでいいと思いませんか?合格体験記をぜひ読んでください。「目的を持って始めた」生徒が成功失敗に関わらず大きく成長している事がわかります。豊かな人生を過ごすための必修課題だと思います。